



今月の表紙は、6月10日(木)に行われた深溝小学校2年生の本年度初めてのプールの授業の写真です。当日は気温も高くプールサイドをはだして歩きながら撮影していましたが足の裏が痛いくらいでした。児童たちは久しぶりの水の感触を思い出しながら楽しんでいました。

## 今月の表紙

# みんなの 広場

皆さんからのお便りをお待ちしています

〒444-0192 菱池字元林1-1 幸田町役場 広報こうた係  
E-mail:kikakujoho@town.kota.lg.jp ☎62-1111 (内線344)  
FAX63-5139

## こうたの民話

### 「へびになった女の人」 荻

荻の玄好寺に、「蓮如上人<sup>れんにょしょうにん</sup>じゃしんの女をさいどしたまう」という絵伝が伝わっています。

ずっと昔、菱池沼が、まだ、みどり野の池とよばれていたころのことです。そのころのみどり野の池は、それはそれは広い池でした。このみどり野の池に、一匹の大蛇が、すむようになりました。身の丈は10メートルにあまり、その胴まわりの太いこと…。道行く人々を驚かせたり、困らせたりしていました。

蓮如さんが、東国への布教の帰り道に、このみどり野の池に立ち寄られました。この恐ろしい大蛇のことを聞かれた蓮如さんは、人々の難儀を救おう、この大蛇を鎮めようとなさいました。そして、大蛇に近づき、着ておられた衣の袖を引きちぎり、大蛇の頭にかぶせて、静かに念仏を唱えられました。念仏が終わったとき、大蛇はその赤い両眼から涙を流しながら、みどり野の池の水底深く沈んでいきました。

その晩のことです。蓮如さんの夢枕に、美しい女の人が現われました。そして話し始めました。「私は、元は人の子でした。16のとき、岩ヶ崎弾正に見初められ、嫁となりました。ところが、わたしが33になったときのことです。主人は20の若い娘に心を移し、とうとう家には帰ってこなくなりました。あの幸せだった日々…憎いのはあの娘…この思いは日増しに高まり…気がついたときには、このあさましい姿となってしまいました。お上人さまのありがたいお念仏のおかげで、あのおぞましい姿から抜け出ることができました。本当にありがとうございました。」

次の日、蓮如さんは、また池の岸边に立たれました。すると、打ち寄せる大波の中から大蛇が現われ、横たわりました。するとなんとという不思議でしょう。大蛇の体から一すじの煙が、高く高く天に上っていきました。

(「こうたの民話」の要約)



【黄色のボタン】

坂口 秀子 さん

## みんなの作品展!

今月の作品は、幸田文化協会の「春の文化展」華道からのセレクトです。



【カキツバタ】

古川 みき子 さん

皆さんの作品を募集します。応募方法は、はがき裏書きもしくは作品を写真に撮りタイトルと作者名(ペンネーム可)をご記入のうえ、広報こうた係までお送りください(デジカメ写真の場合はメールで!)

7月25日は「親子の日」  
「親子」の関係を見つめながら、家族や地域、社会の平和を願うきっかけづくりをしています。こうと、長年親子の写真を撮り続けている写真家ブルース・オズボーン氏の呼びかけで生まれた日。5月の第2日曜日が「母の日」、6月の第3日曜日が「父の日」であることから、7月の第4日曜日を「親子の日」としています。  
オズボーン氏は「親子」という切っても切れない縁、最も基本的な関係そのものに興味が移っていきました。この間に、私自身も二人の娘の親になり、やがてその娘たちは親元を離れました。「今、わたしたちに求められていること、それは親子というベシックで誰でも平等に与えられた関係を再確認すること。それは存在する事への自信を取り戻すことでもあり、人類として地球環境を大切にすることという思いへとつながることもあります」と語っています。  
親子の日普及推進委員会では、「写真コンテスト(テーマはスマイル)」で、一般から「親子」の写真を「エッセイコンテスト」で、変わらない親子関係、自分が親になって初めて気づいた両親の気持ちなど親子問のさまざまなエピソードをつづったエッセイを、それぞれ募集しています。

※資料：親子の日普及推進委員会 <http://www.oyako.org/>



# 青春トークリレー

△△第208走者△△

竹村 麻衣 さん

岩堀区在住 20歳 百貨店勤務  
身長 155cm O型  
好きなタイプ 優しい人  
好きな芸能人 玉山鉄二

4月から社会人となり、毎日見るもの、感じるものが新鮮で、周りの環境もとてもよく、楽しくお仕事をさせていただいています。お客さまとたくさんお話をさせていただき接客業は、本当に楽しいと心から感じる毎日です。ですが、お仕事を通し知識不足は無責任でお客さまに失礼なことだと肌で感じています。上司から「お客さまが声に出すことだけが求めていることではなく、声に出さないお客さまの中に眠っているニーズを呼び起こし察すること、そして余韻の残るサービスを」と教えていただきました。本当に日々勉強です。働くことがこんなに楽しいとは思いませんでした。お客さまとのトーク力をアップさせ余韻の残るおもてなしを目指します！



## はろーキッズ

掲載写真を印刷してプレゼント。  
希望者は企画政策課まで。



### わんぱくぐらぶり

「某月某日」  
〜坂崎保育園〜

#### 里山へ行くコラー！

坂崎保育園の子どもたちは散策が大好き。ペットボトルで作った網付きバッグを肩にかけて探検気分を出掛けます。東に「ウグイスの鳴き声を聞いたよ」西に「アジサイの花が咲き始めたよ」と便りを聞けば、すぐに出発です。いくつがある散策コースの一つでもある里山は、遠出コースとして出発前には気合が入ります。つつじヶ丘の横から雑木林を抜け、フーフー言いなが

ら着いた先に待っているのが、急な坂。やっとの思いで着いた展望台は、三河湾や濃尾平野を見渡すことのできる素晴らしい景色です。時には名古屋のツインタワーも見え、疲れた体は一気に癒やされます。それに加え、坂崎保育園を巣立った先輩たちが植えた桜の木も出迎えてくれます。数年後や数十年後、この景色はどんな風が変わっているかわかりませんが、桜の花でいっぱいになることは間違いないでしょう。そして子どもたちは大人になり、昔保育園からよく歩いたんだなあと懐かしく思ってくれるでしょう。きつと…。



## ちょっと編集者のひびく

▼7月はわたしの誕生日した月なので好きなのですが、暑さにはめっぽう弱いのです。体調管理にはくれぐれも気を付けねばと思っています。今日このごろです。学生諸君は夏休みがやってきますね。夏休みにはいろいろな思い出がありま

す。毎日自分の思い通りにできる時間がたくさんあって楽しかったこと、宿題が計画通りにいかなかった大変だったこと。今となつては、それもこれもみんな懐かしい思い出です。取材に行った先で、「いつも広報こうたを見ているよ、うまく写真を撮るねえ」と感想を伝えてくれた人がいました。自分では、なかなか納得のいく写真を撮つたり、記事がうまく書けなかったり、めげてへこんでいることもありますが、そんな暖かい一言がともうれしかったです。ありがとうございます。

さて、久しぶりに書き留めておいた娘との会話を紹介。わたしが炊飯器の予約を間違えたので取り消そうとしたとき、娘「消し取りボタンを押すね」といって手伝ってくれました。そういえば息子も小さいときに「折りたたみ傘」のことを「たたみ折り傘」と言っていた。耳から聞いて覚えるからこそ、自分の中で違つたように覚えてしまうことは子どもにはよくあることです。いちいち指摘しなくても、そのうちに正しい日本語になつてしまします。忘れないように記録しなくっちゃ。(R)